

第1学年 道徳学習指導案

日 時：平成20年12月5日（金）第5校時

学 級：北上市立北上北中学校 1年B組

（男子9名 女子15名 計24名）

場 所：1年B組教室

授業者：教諭 伊藤 貴洋

1 主題名 人間の弱さの克服、人間の気高さ、生きる喜び〈学習指導要領 内容項目3－(3)〉

2 資料名 『つかの間の出来事』（学研「かけがえのないきみだから」）

3 主題設定の理由

(1) 価値について

中学生の時期には、人間の内面にひそむ弱さや醜さに目が向くようになり、自分の内面を少しずつ見つめることもできるようになる。また、社会のいろいろな現象を通して、物事が決して善悪の二面性で割りきれないことに気付き始めるようになる。そこで、人間の弱さと強さの両面を受け入れつつ、人間の弱さや醜さを克服することのすばらしさに気付かせたい。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は明るく、素直な生徒が多い。行事などでは一つの目標に向かって団結することができるクラスである。しかし、男子を中心に幼さが見られる部分もあり、他人に対して心ない言葉を発したり、人が嫌がるような行動をわざとやったりする生徒や、自分が犯した過ちに対して、素直に認めなかったり、他人のせいにしったりする生徒も見られる。今までには、学級内で筆記用具を隠したり、他人の物を破損させたりといった出来事も幾度かあり、その都度学級の問題としてとりあげ、解決に向け話し合ってきた。

道徳の授業においては、副読本をおもしろいと思っている生徒や、道徳の授業は大切だと思っている生徒が多く、授業中に自分の意見を発表できる生徒も多い。

4 授業の構想について

本資料は、主人公の「わたし」が買い物に行った先でふと手に取った本の表紙を破る場面から始まる。そして、その後の「わたし」の心の葛藤と、自分の弱さを克服しようとする心理描写を通して、読み手に人間の気高さや、素晴らしさを教えてくれる資料である。

規範意識はすべての人間が持っているが、人間はまた時として心の弱さに負けてしまうこともある。本時の指導にあたって、まず本の表紙を破った後に知らないふりをして帰った「わたし」の行動について自分は共感できるかどうか黒板にネームカードを張らせて、生徒同士で意見を共有し、様々な意見を聞きながら人間の持つ弱さについて気付かせたい。

また、挿絵を用いて本資料中の「心の中の黒い雲」という表現に着目させたい。主人公の「わたし」が店の人への謝罪や、母親への告白を通して、黒い雲が少しずつなくなっていくことから、一度過ちを犯してしまっても、謝罪したり、正直に話したりすることで心の中のもやもやしたものがなくなっていくことについて理解させたい。

5 資料分析図

場面	母と行った近くのスーパーで、何気なく手に取った本を破ってしまったわたし。誰も気付いていないので、知らないふりをして帰る。	後ろめたく感じるわたし。このまま後悔したままの生活を送りたくないという気持ちが強くなり、スーパーへ戻った。	店の中になかなか入れないわたし。勇気を出してスーパーのレジに破いた本を持っていった。店の人の弁償しなくてもいいという言葉に、わたしの心の雲は半分くらい消えていった。	急いで家に帰り、母にすべての出来事を話した。言った後は心の雲はなくなり、おだやかな心が広がってきた。本当のことを言ってよかったと心から思った。
主人公の意識	<ul style="list-style-type: none"> ・しまった。 ・誰も見ていないから、知らないふりをして帰ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・店の人の「ありがとうございました」が胸に突き刺さる。 ・引き返して謝りに行きたい。でもどういう風に謝ればいいのかわからない。 ・このまま後悔したままの生活はしたくない。 ・スーパーに戻ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・悪いことをしたのに、「ありがとうございました」と言ってくれた店員さんと顔を合わせられない。 ・謝って許してもらえるだろうか。 ・謝って本当によかった。 ・二度と同じ過ちをしないようにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・晴れ晴れとした気持ち。 ・早く母に言いたい。 ・次からは悪いことをしたらすぐに謝ろう。
学習者の意識	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も主人公と同じような行動をしてしまうかもしれない。 ・早く謝れば良かったのに。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つらいだろうな。 ・自業自得だよな。 ・よくスーパーに戻れたなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーには入りづらだろうな。 ・店の人に許してもらえてよかった。 ・わたしがすっきりしてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんには怒られたけど、後でやさしく言ってくれてよかった。 ・やっぱりちゃんと謝るのは大切だな。
意識の焦点化	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にも主人公と同じような気持ちや、そのような行動をとってしまうかもしれない弱さがあることに共感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしが今後後ろめたい気持ちを引きずったまま、生活を送っていく自分について気付き、弱さを克服しようとする気持ちについてとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葛藤の末、勇気をもって行動した「わたし」の心の変容についてとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんと謝ることで、清々しい気持ちになることができた主人公について押さえる。
発問	<ul style="list-style-type: none"> ・この人の行動に共感できますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ「わたし」はスーパーに戻ろうとしたのだろうか。(次の場面の発問と関連があるため省略する。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーで店員さんに謝った後の「わたし」はどのような気持ちだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうして母に打ち明けたことで雲が半分消えたのか。

6 本時のねらい

人間には弱さや醜さもあるが、それを克服し、強く正しく生きる力もあることを信じて、人間として誇りをもって生きようとする態度を養う。

7 本時の展開

	学習活動と主な発問	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	<p>道徳の時間に対する を話す。</p> <p>1 資料の ージをつかませる。 お店で買った 物が実は れていた (されていた) がありますか?</p>	<ul style="list-style-type: none"> に買ったものが れている。 買った の ージが破れていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間は自分の心と向き合う時間だということを押さえる。 出ない場合は教 の を える。
展開 分	<p>2 資料「つかの間の出来事」から える。 (141の内容を読んで) 「わたし」の行動に共感できますか? ・共感できる、できない、どちらとも言えないをそれぞれ 手し、意思表示 する。 ・自分のネームカードを黒板に える。 (142 を読んで) 店員さんに謝った後の「わたし」はどのような気持ちだろうか。 どうして母に打ち明けることで雲が半分消えたのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分も主人公と同じような行動をしてしまうかもしれない。 謝りに行きたいけれど、怒られるのも面 だな。 自分だったらすぐに謝るだろうな。 すっきりした。 勇気を出してよかった。 お母さんに言ってすっきりしたから。 お母さんに隠していることがなくなったから。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を にして する。 共感できるかどうか、自分の えをネームカードで させ、様々な意見の生徒に発表させる。 人間には弱い心があることを押さえる。 教 が 142 の を し、範読する。 弱さを克服しようとする「わたし」の心 に気付かせる。 勇気を出して行動したことで清々しい気持ちになることができた「わたし」の心の変化について押さえる。 「心の中の雲」について理解挿絵を用いてわかりやすい 明を行う。
末 分	<p>3 本時を り返る。 ・本日の授業を通して感じたことを感想用紙にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 悪いことをしたらすぐに謝るべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 教 自 の後 が悪かった を話し、学習内容をさらに める。

本時の 価 (: 授業者 : 生徒)

生徒がお の意見を活発に できるような展開がなされたか。

人間の弱さを理解した上で、それを克服しようとする心の 要性に気付いたか。

9 板 計

